

イデックスオイルレポート ~For a week~

株式会社新出光

【NY原油 概況】

●7日のWTI原油は、前日比0.32ドル高の59.75ドルとなった。
スイスのコモディティー（商品）商社ガンバー・グループは6日、ロシア石油大手ルクオイルの海外資産を買収する提案を撤回したと明らかにした。米財務省がガンバーをロシアの「操り人形」と表現し、取引に反対する姿勢を示唆したことを受けての対応とみられている。

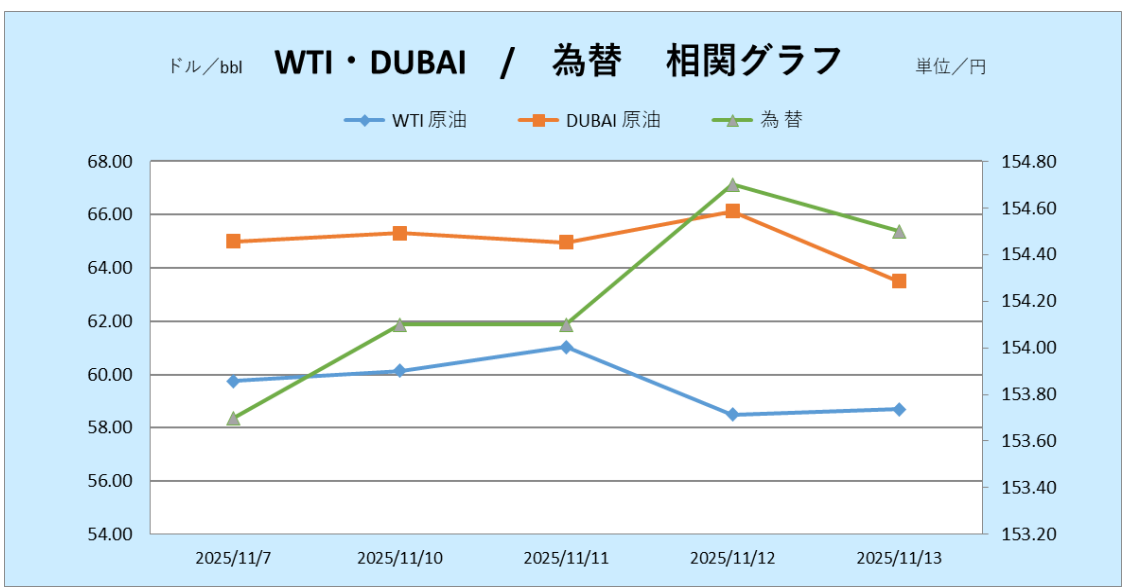
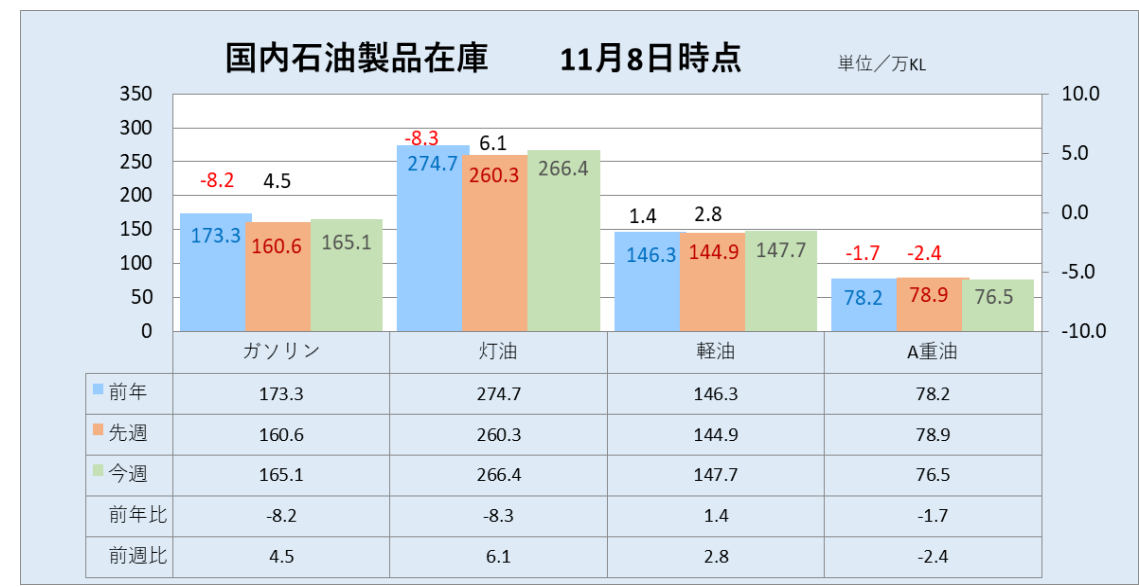
●10日のWTI原油は、前日比0.38ドル高の60.13ドルとなった。
米上院は9日夜、つなぎ予算案の修正案に関する討論終結動議を可決。修正案の上院通過は確実となった。下院での可決を経て、トランプ大統領の署名により成立する。政府機関の一部閉鎖は今週中にも解除されるとみられている。

●11日のWTI原油は、前日比0.91ドル高の61.04ドルとなった。
米上院は10日、つなぎ予算案の修正案を可決し、下院に送付した。下院での再可決を経て、トランプ大統領の署名により成立するとみられている。

●12日のWTI原油は、前日比2.55ドル安の58.49ドルとなった。
石油輸出国機構（OPEC）、米エネルギー情報局（EIA）がそれぞれ発表した需給見通しを受け、供給過剰懸念が台頭し、リスク投資意欲の改善は相殺され、原油売りが活発化した。

●13日のWTI原油は、前日比0.2ドル高の58.69ドルとなった。
供給過剰懸念を背景に、前日の相場は4%超安となった。これを受け、この日は安値拾いの買いが優勢となり、終日プラス圏を堅調に推移した。米エネルギー情報局（EIA）が正午に発表した週間原油在庫統計（7日までの1週間）によると、原油在庫は前週比640万バレル増と、積み増し幅は市場予想（200万バレル増＝ロイター通信調べ）を上回った。

2025/11/14 12:00現在 WTI原油 61.00ドル 為替 1ドル 155.74円



【次回価格変動予想】

11/20～11/26

【市況総括】

ガソリン	➡	±0 ～ 0.5
灯油	➡	±0 ～ 0.5
軽油	➡	±0 ～ 0.5
A重油	➡	±0 ～ 0.5
LSA	➡	±0 ～ 0.5

※原油コスト「±0円～+0.5円」
※補助金（ガソリン・軽油）「15.0円」前週比±0円
※現時点での予測です。

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「-0.5円」、補助金は、ガソリン/軽油「+5円」・灯油/重油「±0円」、都合、ガソリン/軽油「-5.5円」・灯油/重油「-0.5円」の改定となった。

《来週》次回の元売り改定は、原油コストは「±0円～+0.5円」、補助金は「±0円」で、都合全油種「±0円～+0.5円」の改定予測となっている。

【次世代エネ コラム】 < クリーンな次世代エネルギー「水素」が安価でぶくぶく >

信州大学の堂免一成特別栄誉教授が、太陽光と水から直接水素を製造する光触媒システムの開発で世界的に注目されている。従来の太陽電池などを用いた電気分解は高コスト化が課題となり多くのプロジェクトが中断しているが、堂免教授が目指すのは半導体の微粒子を水に入れ太陽光を当てるだけの単純なシステムで、安価な水素製造を可能にする。研究は「八合目」まで来ており、材料は絞り込んだが組成の最終決定に苦労している段階で「いつうまくいってもおかしくない」状況だという。

実用化に向けた一歩手前の段階として、長野県飯田市で3000平方メートル規模の大規模実証実験を控えており、来年度中のパネル設置完了を目指す。茨城県での100平方メートル規模の先行実験では高純度水素の製造と安全性の検証に成功している。

エネルギー変換効率5%で商業化できるとされており、堂免教授は環境省の人工光合成検討会の委員も務め、2030年頃の実用化を目指す国の工程表も現実的だとの見解を示した。

[コラム出典] 南日本新聞 <https://373news.com/news/local/detail/221818/>